

平成29年度研究科横断型教育プログラム（Aタイプ）授業科目

開講方式	Aタイプ (研究科 開講型)	研究科名	生命科学 研究科	カテゴリー	マネジメント・キャリア A・研究者倫理科目 群	横断 区分	理系横断型				
授業科目名 (英訳)	生命科学キャリアパス (Career Paths in Life Sciences)		講義担当者 所属・職名・ 氏名	生命科学研究科 教授 片山高嶺		開講 場所	北部キャンパス にて開講予定				
配当 学年	博士後期	単位 数	1単位	開講年 度・開講 期	前期 集中	曜時限	火3・4限 (13:00-16:15)	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
〔授業の概要・目的〕											
自然科学系の博士の進路は、アカデミックな研究者、バイオ関連企業における高度実務者、知財専門家、起業家、官公庁の行政専門家など多様である。本講義では、各分野で活躍する講師が提供する自身のキャリアに関する話題をもとに、自然科学系分野の博士学位取得後のキャリア選択肢を広げ、社会で活躍する博士のイメージを具体化する。博士学位取得後の能動的なキャリアパス設計能力を身に付ける。											
〔研究科横断型教育の概要・目的〕											
医学・薬学・理学・農学等の学位を有する講師が、それぞれの学問的背景をもとに自身のキャリアパスを紹介する。多様な考え方に接し、また講師陣と議論をすることで、幅広い知識や教養を得ることができる。これにより、学問分野を横断して活躍するような人材を育成することが可能となる。											
〔到達目標〕											
受講学生は、講義のなかでの議論を通じて、自然科学系の博士が活躍する各キャリアを深耕し、必要なスキル・要件を理解できるようになる。社会のなかの自然科学系分野の位置づけを理解し、自身の研究や習得した能力を有効に活用するキャリア設計ができるようになる。											
〔授業計画と内容〕											
第1回 5月9日(火) 話題提供: 仙石慎太郎 「PhDの再考とキャリア機会の多様化」 PhD (Philosophiae Doctor, Doctor of Philosophy) とは元来、特定の分野における専門性ではなく、研究者としての普遍的な資質の証である。換言すれば、PhD 取得者は、課題或いはリサーチ・クエスチョンを設定する能力、設定した課題を分析的アプローチをもとに解決する能力、解決のためのプロジェクトマネジメント能力、成果を発信するためのコミュニケーション能力等を有しており、これらを活用出来るキャリア機会は研究職に限らず、多様な広がりをもつ。本講義では、講師自身の経験にもとづき、アドバイザー・サービス(コンサルティング・ファーム、投資銀行、シンクタンク、ベンチャー・キャピタル等の提供サービスの総称)や他専門分野におけるアカデミックの活動を紹介し、これら諸活動での PhD の意義、博士後期課程におけるキャリア計画への意味合いを議論する。											
第2回 5月23日(火) 話題提供: 垣塚 彰 「研究とは何か? :論文執筆の神髄とコツ」 本講義では、講師が留学時に経験した日本の研究と留学先での研究に対する根本的な考え方と取り組み方の違いを紹介する。どちらが良いとか優れているということではなく、もしかしたら、諸君の研究に対する意識ががらっと変わり、もの凄く研究が面白くなるかもしれないような内容にしたいと思っている。											
第3回 6月6日(火) 話題提供: 横井 宏理 「PhD に求められる複眼的視点」 PhD には、高い研究能力に裏打ちされた立案・推進力の発揮が求められる。そこで、製薬企業の研究職・特許庁の審査官・弁理士という立場で研究・知財に関わってきた講師から、研究・知財に関する視点と時間軸のとらえ方が業界毎に異なる点について紹介する。そして PhD が職務を遂行する際に、それら異なるとらえ方を併せ持つことの重要性について論じる。											
第4回 6月20日(火) 話題提供: 児玉 由紀子 「企業における女性研究者としてのキャリアパス」 大学と企業の研究活動の違いや企業において求められる研究者像、また企業(サントリー)の人材育成プログラムやキャリアデザイン支援などについて紹介・説明する。											
〔履修要件〕											
特になし											

〔成績評価の方法・観点及び達成度〕

出席および講義中の議論への参加により評価する。必要に応じて課題を課すことがある。
詳細については開講時に説明する。

〔教科書〕

使用しない。
講義資料は配布予定。

〔参考書等〕

三浦有紀子、仙石慎太郎『博士号を取るときに考えること 取った後できること』（羊土社）
ISBN:ISBN978-978-4-7581-2003-6

〔授業外学修(予習・復習)等〕

初回の講義において各回の講義内容と必要な予備知識について説明する。話題提供者が有する分野について予備的な知識を身につけてから毎回の講義に参加することが望ましい。

〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕

様々なキャリアを有する方々の声を聞くことができる良い機会ですので、博士後期課程学生は積極的に参加してください。進学を考えている修士課程の学生の聴講も歓迎です。